

手根管症候群術後発症する Pillar Pain に関わる因子の検討

1. 研究の対象

2015年1月～2018年3月に当院で手根管症候群に対し手術を受けられた方

2. 研究目的・方法

手根管症候群は上肢の末梢神経障害で、最も頻度の高い疾患である。本邦、および米国のガイドラインでは、手術が最も推奨される治療法の一つとされている。手根管症候群の手術に際し、最も大きな問題は術後に生じる創部、および創周囲の疼痛が平均3ヶ月程度遷延することである。これらの痛みはPillar Pain と呼称され術後5～48%の頻度で生じると報告されている。これまでPillar Pain の発症に関わる要因についての報告が散見されるが、その多くが術後に生じる変化についての報告であり、術前にPillar Pain の発症を予測できる要因についての報告は稀である。本研究では術前に計測しうる各種のデータから、術後のPillar Pain の発症を予測できるかを調査する。また、術前にPillar Pain の発症を予測することが、よりよい術後の疼痛管理に寄与できるか検討することを目的とする

3. 研究に用いる試料・情報の種類

2015年1月から2018年3月までに手根管症候群の手術を当院で行い、研究担当者による評価をうけた患者さんの診療録の内容を収集し、統計学的に検討し結果に科学的意義をもたせる。診療録に記載された情報（年齢、性別、BMI、既往歴、合併症、術式、神経伝導速度による重症度評価、超音波検査による正中神経の形態評価、術後の症状の変化など）を収集する。これにより得られた情報を検討しPillar Pain の発症を予測できる因子の抽出が可能か調査する。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

磐田市大久保 512-3 <tel:0538-38-5000>

研究責任者 大石 崇人